

第1章 数の表現と誤差

1 开区間・閉区間の表記法

(a, b) のような表記のとき、开区間と呼び範囲の両端 a, b は区間に含まれない。

$[a, b]$ のような表記のとき、閉区間と呼び範囲の両端 a, b は区間に含まれる。

$(a, b]$ のような表記のとき、左開右閉あるいは右閉左开区間と呼び a は区間に含まれないが、 b は区間に含まれる。

$[a, b)$ のような表記のとき、左閉右開あるいは右開左閉区間と呼び a は区間に含まれるが、 b は区間に含まれない。

2 関数の誤差範囲とパラメータの誤差範囲の関係

実数 x 及び y の測定値をそれぞれ a, b とし、その誤差の範囲を $\Delta a, \Delta b$ で表したとすると、

$$\begin{aligned}x &= a \pm \Delta a \\y &= b \pm \Delta b\end{aligned}\tag{2.1}$$

と書くことができる。ただし $0 < \Delta a, 0 < \Delta b$ である。

ここで x と y の関数としてあらわされる量 $z = f(x, y) = f(x)$ を考える。この z は $z = f(x) = c \pm \Delta c$ の形で書くことができ、 c と Δc はそれぞれ以下のように記述できる。

$$c = f(a, b) = f(\mathbf{a})\tag{2.2}$$

$$\begin{aligned}
\text{誤差の絶対値} &= |f(\mathbf{a} \pm \Delta \mathbf{a}) - f(\mathbf{a})| \\
&= \left| \left(f(\mathbf{a}) \pm \frac{\partial f(\mathbf{a})}{\partial \mathbf{x}} \Delta \mathbf{a} + \dots \right) - f(\mathbf{a}) \right| \\
&= \left| \pm \frac{\partial f(\mathbf{a})}{\partial \mathbf{x}} \Delta \mathbf{a} \pm \dots \right| \\
&\simeq \left| \pm \frac{\partial f(\mathbf{a})}{\partial \mathbf{x}} \Delta \mathbf{a} \right| \\
&= \left| \pm \frac{\partial f(a,b)}{\partial x} \Delta a \pm \frac{\partial f(a,b)}{\partial y} \Delta b \right| \\
&\leq \left| \frac{\partial f(a,b)}{\partial x} \right| \Delta a + \left| \frac{\partial f(a,b)}{\partial y} \right| \Delta b \\
&\equiv \Delta c
\end{aligned} \tag{2.3}$$

ただし $0 < \Delta c$ である. Δc には以下のような性質がある.

$z = f(x, y) = x \pm y$ のとき,

$$\begin{aligned}
\Delta c &= \frac{\partial f(a,b)}{\partial x} (\Delta a) + \frac{\partial f(a,b)}{\partial y} (\Delta b) \\
&= \Delta a + \Delta b
\end{aligned} \tag{2.4}$$

となり, z の絶対誤差 Δc はパラメータ x, y の絶対誤差 $\Delta x, \Delta y$ の和となる.

$z = f(x, y) = xy$ のとき,

$$\begin{aligned}
\Delta c &= \frac{\partial f(a,b)}{\partial x} (\Delta a) + \frac{\partial f(a,b)}{\partial y} (\Delta b) \\
&= b(\Delta a) + a(\Delta b) \\
\frac{\Delta c}{c} &= \frac{\Delta a}{a} + \frac{\Delta b}{b}
\end{aligned} \tag{2.5}$$

となり, z の相対誤差 $\frac{\Delta c}{c}$ はパラメータ x, y の相対誤差 $\frac{\Delta a}{a}, \frac{\Delta b}{b}$ の和となる.

3 精度による問題の例

- (i) gfd1.f90 は, $n^2, n^3, 1/n$ について, n が 1~10 の場合を出力するプログラムとなっている。
- (ii) gfd2.f90 は, 0.01 を一万回足すプログラムである。単精度と倍精度の場合で結果の正確さが異なっている。